

NGO 報告集

ヨハネスブルグ・サミットに関する NGO 質問票

〔団体の概要〕

団体名	アース・ビジョン組織委員会事務局 英語名：EARTH VISION Committee		
所在地・連絡先	〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-7 飯倉ビル 3 階		
	電話: 03-3585-8957	FAX: 03-3585-8959	
	email: earth-vision.nozawa@nifty.ne.jp , earth-vision@webfront.ne.jp ホームページ http://www.webfront.ne.jp/~earth-vision/		
設立年月	1991 年 10 月		
組織	専従スタッフ	3 名	ボランティアスタッフ 7 名
	会員制度 (なし)	正会員 名(内訳:個人 賛助会員 名(内訳:個人 その他会員 名	名 / 団体・法人 名) 名 / 団体・法人 名)
団体の目的	アース・ビジョン組織委員会とは、「地球環境」をテーマとした国際映像祭、「EARTH VISION 地球環境映像祭」を開催する団体である。「EARTH VISION 地球環境映像祭」は、映像、写真を通して地球環境について考えることを目的に、日本をはじめとするアジア、オセアニア・ポリネシアに広く作品を募集し、コンペティション形式の上映会、写真展を行っている。この映像祭を通して、アジア・オセアニア・ポリネシアにおける、環境映像・写真の制作者を支援、制作活動を促進すること。また、優れた作品の国内外への上映会や環境イベントなどに提供することによって、各地の環境教育活動に協力・寄与することが、映像祭の目的である。		
団体の活動 プロフィール	1992 年、アジア初めての国際環境映像祭として、「EARTH VISION'92 第 1 回地球環境映像祭」を開催。以後、毎年、アジア・オセアニア・ポリネシア地域の優れた環境映像を日本に紹介している。 1998 年からは従来の映像部門に加えて、写真部門も開設。多くの人々の参加が可能となり、より身近ですそ野の広い国際映像祭としての方向性も打ちだしている。 2002 年 5 月、国際環境映像祭の世界的ネットワーク、エコムーブ・インターナショナルを、ヨーロッパの 5 つの国際環境映像祭とともに設立。ヨハネスブルグでの映画祭参加を皮切りに、世界各地の国際環境映像祭との連携、共催イベントも計画中である。		

1. 団体（及び団体関係者）がヨハネスブルグ・サミットに関連して行なった活動

A. サミットまでの活動

2002年5月、国際環境映像祭のネットワーク、エコムーブ・インターナショナルを設立。このエコムーブでの初めての企画として、ヨハネスブルグ・サミット映画祭への参加を決定。

以後、ヨハネスブルグでの映画祭主催者及び、エコムーブ内の電話会議やメールでの連絡、検討を重ねる。

B. サミットで（または会期中日本国内で）の活動

サミットの公式教育プログラムである「ヨハネスブルグ・サミット映画祭（Jozi Summit Film Festival）」への参加。

映画祭では、EARTH VISIONを含む、国際環境映像祭のネットワーク、エコムーブ・インターナショナルのために、グリーン・ビジョン（Green Vision）という部門を設け、その作品をヨハネスブルグ市のサントン地区の3つの映画館とサウスゲート地区の1つの映画館にて上映した。

「EARTH VISION 地球環境映像祭」からは受賞作品をはじめとする6作品を出品。観客の人気を集めた。

C. サミット後の活動及び今後の活動の展望

エコムーブ・インターナショナルでは、ヨハネスブルグ・サミット映画祭での反省を受けて、2003年ベルリンにて、「エコムーブ世界環境映像祭」の開催を準備中。以後、隔年で映像祭を開催する予定である。

また、映像祭の他にも、今回のヨハネスブルグでの参加のような、国際的文脈での上映会、ワークショップ、活動紹介などを検討している。

2. ヨハネスブルグ・サミットに対する評価・意見

「ヨハネスブルグ・サミットで得たもの・得られなかったもの」

【ヨハネスブルグ・サミット映画祭】

- ・参加し、EARTH VISION 作品を上映することによって、アジア・オセアニアの優れた環境映像をヨハネスブルグで紹介できたことの意味は大きかった。EARTH VISION 作品及び、地域の映像作家の制作活動を支援するという理念に感銘を受けたヨハネスブルグの主催者からは、今後、ヨハネスブルグにて国際映像祭を開催する際のアドバイス等の協力を求められた。
- ・主催団体であるヨハネスブルグの数団体の連携、コミュニケーションは必ずしもうまくいっておらず、最新状況の把握、および現状改善が非常に困難であった。
- ・現場の混乱への対処に忙殺され、映画祭関係者以外のサミット参加者との交流にあてる時間が少なくなってしまったことは残念であった。

3. 団体（または団体のメンバー）による、サミット関連の報告書や意見書（ニュースレターやその他雑誌など、他団体発行媒体での掲載分も含む）、及び団体に帰属する写真・ビデオなどのリスト

a. 自主制作報告書
「EARTH VISION 第11回地球環境映像祭」カタログ （ヨハネスブルグに関する短い報告掲載）
b. 報告会資料（開催告知チラシ、当日配布資料など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨハネスブルグ映画祭のカタログ ・ヨハネスブルグ映画祭のポスター ・ヨハネスブルグ映画祭の中のEARTH VISION作品上映の告知チラシ ・エコムーブ・インターナショナルの紹介リーフレット
c. ニュースレター
d. 雑誌・新聞等に投稿または取材を受けて掲載された記事
e. 写真（報告書に掲載してもよい写真があればご紹介ください）
映画祭の大きなポスターの写真など（データ）
f. ビデオ（ <input type="checkbox"/> をチェックし、詳細を書いてください）
<input type="checkbox"/> 外向けに団体が編集、制作したもの <input type="checkbox"/> 他者が制作したものに一部写っている <input type="checkbox"/> 記録用のみに撮ったもの

ヨハネスブルグ・サミットに関する NGO 質問票

〔団体の概要〕

団体名	特定非営利活動法人 アサザ基金 英語名：Nonprofit Organizaition Asaza Fund	
所在地・ 連絡先	〒300-1233 茨城県牛久市栄町 6-387	
	電話:029-871-7166 FAX:029-871-7166	
	email: Asaza@fsinet.or.jp	
	ホームページ http://www.Kasumigaura.net/Asaza/	
設立年月	1999年12月	
組織	専従スタッフ 4名 非常勤スタッフ 12名	
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">会員制度 (あり)</td> <td> 正会員 34名 (内訳：個人33名 / 団体・法人 1名) 賛助会員 92名 (内訳：個人73名 / 団体・法人 19名) その他会員 227名 </td> </tr> </table>	会員制度 (あり)
会員制度 (あり)	正会員 34名 (内訳：個人33名 / 団体・法人 1名) 賛助会員 92名 (内訳：個人73名 / 団体・法人 19名) その他会員 227名	
団体の目的	<ul style="list-style-type: none"> * 霞ヶ浦とその流域全体を対象とした環境再生・保全 * 21世紀型公共事業 * 流域管理の実現 * 持続可能な社会の構築～100年後にトキの野生復帰 	
団体の活動 プロフィール	<p>霞ヶ浦流域全体を対象として、湖と森と人を結ぶ霞ヶ浦再生事業「アサザプロジェクト」を推進するNPO法人。1995年に開始した「アサザプロジェクト」は170を超える小学校をはじめ、行政、企業、研究機関、大学、一般市民、漁協、生協、森林組合などの広域ネットワークによって担われ、参加者は延べ6万人に達している。</p> <p>アサザプロジェクトは、従来の公共事業とは異なる市民型公共事業を提唱し、広域的な環境再生事業を実践し、多様な主体の協働による循環型社会を構築して、100年後にトキの棲める環境と社会を目指しています。</p>	

1. 団体（及び団体関係者）がヨハネスブルグ・サミットに関連して行なった活動

A. サミットまでの活動

英文資料の作成
(P16の冊子 ・ パネル7枚)

B. サミットで（または会期中日本国内で）の活動

資料の配布
他団体との情報交換
活動紹介
各種セミナーへの参加

C. サミット後の活動及び今後の活動の展望

会報にて活動報告

2. ヨハネスブルグ・サミットに対する評価・意見

「ヨハネスブルグ・サミットで得たもの・得られなかったもの」

今後に向ける課題

現地での移動を含め、かなり活動が制限されたこと、旅費、宿泊費など個人負担では高額であったことが残念でした。

南アフリカ共和国と決まった時点で、NPO・NGOが参加しやすい条件を整える配慮をしてほしかった。また、次回からは自力でも参加しやすい状況を作る努力をすべきであると、反省している。本来、改善していく努力をすることをおしてこそが、サミットへの本当の参加といえるのだろうと、準備不足を悔やんでいる。

国内のNGOの現地での活動状況が事前に、もしくは現地でもっと迅速につかめていたら他団体との交流も、もっと活発に出来たと思われる。

とにかく、悔やまれることだらけのサミット初参加でしたが、サミット開催の意義も含め、根本的に問いなおしながら、今回の体験を活かして、当基金の活動に繋げて行きたい。

3. 団体（または団体のメンバー）による、サミット関連の報告書や意見書(ニュースレターやその他雑誌など、他団体発行媒体での掲載分も含む)、及び団体に帰属する写真・ビデオなどのリスト

a. 自主制作報告書
なし
b. 報告会資料（開催告知チラシ、当日配布資料など）
なし
c. ニュースレター
当基金の会報 10月発行号に掲載
d. 雑誌・新聞等に投稿または取材を受けて掲載された記事
なし
e. 写真（報告書に掲載してもよい写真があればご紹介ください）
現地での活動スナップ写真があります。
f. ビデオ（ <input type="checkbox"/> をチェックし、詳細を書いてください）
<input type="checkbox"/> 外向けに団体が編集、制作したもの <input type="checkbox"/> 他者が制作したものに一部写っている <input type="checkbox"/> 記録用のみに撮ったもの

ヨハネスブルグ・サミットに関する NGO 質問票

〔団体の概要〕

団体名	財団法人 旭硝子財団 英語名：The Asahi Glass Foundation		
所在地・ 連絡先	〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ		
	電話:03-5275-0620	FAX:03-5275-0871	
	email:post@af-info.or.jp ホームページ http://www.af-info.or.jp		
設立年月	1934年2月		
組織	専従スタッフ 8名 ボランティアスタッフ 0名		
	会員制度 (なし)	正会員 名 (内訳：個人 名 / 団体・法人 名) 賛助会員 名 (内訳：個人 名 / 団体・法人 名) その他会員 名	
団体の目的	次の世代を拓く科学技術に関する研究助成、人類がグローバルに解決を求められている課題への貢献に対する顕彰などを通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与すること。		
団体の活動 プロフィール	<p>旭硝子財団は、旭硝子株式会社創業 25 周年を記念して、昭和 8 年（1933）に設立され、半世紀以上の間、応用化学分野の研究に対する助成を中心に活動を積み重ねてきた。平成 2 年（1990）に、財団の目的と名称を現在のものに改め、助成事業と顕彰事業とを 2 本の柱とする活動を展開している。</p> <p>事業内容</p> <p>1. 研究助成事業 ① 自然科学系研究助成 ② 人文・社会科学系研究助成 等</p> <p>2. 顕彰事業 ① 地球環境国際賞「ブループラネット賞」 ② その他の環境関連活動：「環境アンケート」調査の実施 等</p> <p>地球環境問題の解決に科学技術の面から大きく貢献した個人や組織に対して、地球環境国際賞「ブループラネット賞」を贈呈している。毎年 2 件を選定し、それぞれに賞状、トロフィーならびに副賞賞金 5,000 万円を贈る。1992 年のリオデジャネイロでの地球サミットにおいて第 1 回の受賞者を発表して、本賞を発足させた。</p> <p>また、「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査を、環境問題に携わる世界の有識者を対象に実施している。</p>		

1. 団体（及び団体関係者）がヨハネスブルグ・サミットに関連して行なった活動

A. サミットまでの活動

本年、ブループラネット賞の10周年を記念して、第6回から10回表彰までの歴代受賞者の講演録、エッセイおよび文献リストを掲載した "A Better Future for the Planet Earth Vol. II" (B-5版、約340頁) を英文出版した。5周年の時に、同様の内容の本 (B-5版、約300頁) を出版したが、その続編に相当する。この本は、最新の情報を含んだ環境分野の参考書でもあるので、配布することによって、一般の人々の環境問題への関心を高めることを狙いとしている。ヨハネスブルグ・サミットは、この本を配布するのに最適の場であると考えた。また、ブース内に掲示して当財団の活動を紹介するポスター4枚を制作した。

B. サミットで（または会期中日本国内で）の活動

上記の "A Better Future for the Planet Earth Vol. II" (B-5版、約340頁) をサミットまでに英文出版し、その中から200冊を持参した。また、2001年「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査報告書の小冊子 (A-4版、30頁) も、人々の環境問題への関心を高めることに役立つと考えて200冊余を持参した。会期中、Sandton のヒルトンホテルで開催された WBCSD (持続可能な開発に関する世界経済人会議) の会場の資料展示場 (8/30、9/1)、および Nasrec の NGO 展示会場のブース (8/31、9/3) において、希望する参加者各人に上記2冊を配布して、当財団の活動を簡単に紹介し、環境アンケートへの回答等の協力を依頼した。WBCSD 主催の会議には、旭硝子(株)がその会員なので、当財団はそのグループの一員として参加した。

C. サミット後の活動及び今後の活動の展望

"A Better Future for the Planet Earth Vol. II" (B-5版、約340頁) および2001年「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査報告書の小冊子 (A-4版、30頁) を配布したサミットへの参加者には、2003年に「環境アンケート」への回答を依頼する予定である。彼らが回答してくれることを期待している。

2. ヨハネスブルグ・サミットに対する評価・意見

「ヨハネスブルグ・サミットで得たもの・得られなかったもの」

個人としての意見を記載する。

当財団は、リオでの地球サミットにおいて、ブループラネット賞の発足、および第1回表彰の受賞者を発表したのので、本サミットでも本賞に関して活動すること念頭においた。その結果、上述のように「受賞講演・エッセイ録」と「環境アンケート」調査報告書を配布することとなり、提言フォーラムの一員として、南アフリカに8月29日から9月5日まで滞在した。

WBCSD主催の会場は参加者が多く、本の配布は短時間で済んだが、一方、NGO 展示会場は参加者が少なかったのので、本の配布に時間がかかった。NGO 展示会場に参加者が少なかったのは、入場料が150ランドと高額だったことが原因と推定され、Ubuntuの政府関係展示場の30ランドと比べはるかに高く、納得できない設定であった。

滞在中に、いろいろなNGOの考え方に触れることができ、また、サミットで合意がなされるまでの政府間交渉、それに対するNGOの主張、各国毎の政府とNGOとの対話などのプロセスを理解でき、私にとっては有益であった。世界的環境NGOが大きな発言力と先進国並みの広いブースを持っていたこと、WBCSD会場ではビジネス、メディア、NGOのいずれの参加者も質疑応答の真剣さが目立ち、会場の熱気が印象に残った。

黒人居住区の見学を含め、南アを直接観察することにより、アフリカの社会的、経済的に苦しい現状が、私なりによく理解できた。失業率が45%と高い南アに、それよりもっと失業率の高い周辺諸国の人々が流入している。多くの人々には収入の道がなく、したがって治安が悪くなるのは当然である。南アの大都市の治安悪化は、まさに80年代のニューヨークと酷似していると感じた。収入が少なくとも、ともかく職を与えることが最優先の政治課題であり、それなくしてアフリカの未来はないと思われる。アフリカの環境問題を考慮して、いかに先進国がこの点で協力していけるかが、今後問われるのであり、正しい協力ができれば、環境問題もよい方向に向かうと思う。

3. 団体（または団体のメンバー）による、サミット関連の報告書や意見書（ニュースレターやその他雑誌など、他団体発行媒体での掲載分も含む）、及び団体に帰属する写真・ビデオなどのリスト

a. 自主制作報告書
<p>自主制作報告書はないが、サミットで配布した資料は次の通り。</p> <p>1. "A Better Future for the Planet Earth Vol.Ⅱ"— ブループラネット賞の10周年を記念して発行した、第6回から第10回表彰までの受賞者10件の「受賞講演・エッセイ録」（B-5版、340頁）</p> <p>2. Results of the Tenth Annual "Questionnaire on Environmental Problems and the Survival of Humankind 2001"（A-4版、30頁）</p>
b. 報告会資料（開催告知チラシ、当日配布資料など）
なし。
c. ニュースレター
なし。
d. 雑誌・新聞等に投稿または取材を受けて掲載された記事
なし。
e. 写真（報告書に掲載してもよい写真があればご紹介ください）
なし。
f. ビデオ（ <input type="checkbox"/> をチェックし、詳細を書いてください）
<p><input type="checkbox"/> 外向けに団体が編集、制作したもの</p> <p><input type="checkbox"/> 他者が制作したものに一部写っている</p> <p><input type="checkbox"/> 記録用のみに撮ったもの</p>

ヨハネスブルグ・サミットに関する NGO 質問票

〔団体の概要〕

団体名	アジア環境連帯 英語名：Asia-pacific Coalition for Environment (ACE)	
所在地・ 連絡先	〒108-0038 東京都千代田区美倉町11-1	
	電話:03-5298-5306	FAX:03-5298-0125
	email:yeguchi@ngo-ace.org ホームページ http:// www.ngo-ace.org	
設立年月	2001年1月1日	
組織	専従スタッフ 4 名 ボランティアスタッフ 15 名	
	会員制度 (あり・なし)	正会員200名(内訳：個人170名 / 団体・法人30名) 賛助会員 名(内訳：個人 名 / 団体・法人 名) その他会員 名
団体の目的	環境資本主義の上に「循環型社会」の形成を目指す。環境問題の解決と持続可能な社会づくりの視点から、日本とアジア・太平洋地域における環境問題解決の連帯を図り、新しい環境創生の幅広い思想・知識・技術の交流、実践、それらを発信していく「場」としての役割・活動を目指す。	
団体の活動 プロフィール	2001年・臣会合(閣僚会議、関係会議に参加) AIB(国際ビジネス学会)において、環境問題セッションに参加 (2001年、オーストラリア) New環境展(2002年5月)出展 アジア環境経済圏」関連研究会・会議に出席、とくに、PBEC(太平洋経済委員会)、PECC(アジア太平洋経済協力会議)関連会議に出席。	

1. 団体（及び団体関係者）がヨハネスブルグ・サミットに関連して行なった活動

A. サミットまでの活動

1. 経営の中心軸をSD（Sustainable Development）企業に据え、SD企業の概念・経営を実態的に検証
2. アジア地域の環境政策の情報収集
3. 環境外交推進のためのプロジェクトの具体化、 2000年度イオン財団助成

B. サミットで（または会期中日本国内で）の活動

「ヨルダン川西岸地区環境改善プロジェクト(WECUP) 推進のためのパレスチナ、イスラエル、ヨルダン、アメリカ、日本（ACE）の4NGOが、ウォーター・ドーム(ヨハネスブルグ・サミット会場)で、3回ミーティングを行った。現地でのミーティングは大きな成果があり、4カ国間の信頼関係の構築に成功した。

C. サミット後の活動及び今後の活動の展望

2002・9・18 ACE主催：ヨハネスブルグ・サミット報告会開催
2003・3～ 中東地域(ヨルダン)での環境改善プロジェクトの展開および環境セミナー開催
アジア環境連帯としての「アジア環境経済圏」形成のためのアジアNGOとの活動交流、各国の環境インフラ整備・推進。
「教育のための10年」協議会に積極的に参画し、とくに民間企業の環境教育を国際的な視点から推進。

2. ヨハネスブルグ・サミットに対する評価・意見

「ヨハネスブルグ・サミットで得たもの・得られなかったもの」

- ① ACEとしてヨハネスブルグ・サミットへの参加は今後の活動に大きなメリットがあった。とくに、ACEの活動方向を明確にしたこと、また、WECUPプロジェクト推進5団体とのミーティングができた(ほとんど不可能な情勢下での)
- ② サミット参加はACEがたのNGOとの交流を開き、全体活動方向をオールNGO体制に持っていくことができるようになった。
- ③ とくに、ヨハネスブルグ提言フォーラム(JFJ)参加のメリット(参加資格など)を享受した。
- ④ その後のNGOとの交流機会が増え(事務局経由)、ACEに活動領域を広げている。
- ⑤ ただ、課題はオール・ジャパンの形態をとりきれていないのは「仲間内NGO」の風土的体質が災いしている。
- ⑥ 元来、環境問題は横断的、総合的な性格を持つものであるにも関わらず、「仲間内NGO」を脱しきれないのは、全体像、歴史観の把握に欠ける傾向があるからである。
- ⑦ NGOが既存の行政機関と対等の立場に立つためには長期的な課題、複合的な課題を設定しておく必要がある。
- ⑧ 現在、世界的にはNGO重視になってきているが、日本に関しては官庁の目の届くところにNGO活動をおくという風土が依然として残っているのではないか。
- ⑨ サミットにはNGOを含め、多くの関係者が参加したが、関係者間の情報交流がおこなわれていない。10年前の「アジェンダ21」のフォローアップが不十分にしかなされていない状況下で、ヨハネスブルグ・サミット後のフォローアップを今後10年を目標にして、体制を作り上げていかなければならない。再び同じ過ちを繰り返してはならない。それに歯止めをかけ、10年という長期目標に向かって走る活動主体はNGOであり、オール・ジャパンの体勢づくりが不可欠である。それを側面から押すには主務官庁の行政実行力である。K行政側のビジョンと執行力が重要で、そのためにはNGO側からの行政側への絶え間ない働きかけが重要で、また行政側からの真摯な反応といった政策形成コアが定着し、安定することがその軸となる。
- ⑩ NGO全般(ACEの活動領域がアジアと日本に指定されていることもあり、国際的活動は大前提となる。国際間でのNGO活動をさらに活発化させるためには、行政側からの資金協力が欠かせない。10年後を想定した全体行動計画を主務官庁とNGOで草案を描く必要があろう。
- ⑪ そのためには日本のNGOに多くある行動慣習、すまわち、「仲間内NGO」、古いNGOが新興NGOを排除するような風潮を除いていくことが肝要である。

3. 団体（または団体のメンバー）による、サミット関連の報告書や意見書(ニュースレターやその他雑誌など、他団体発行媒体での掲載分も含む)、及び団体に帰属する写真・ビデオなどのリスト

a. 自主制作報告書
b. 報告会資料（開催告知チラシ、当日配布資料など）
「ヨハネスブルグ・サミット」報告(世界経済評論2002年11月号)「NGOの視点から見たヨハネスブルグ会議」
c. ニュースレター
d. 雑誌・新聞等に投稿または取材を受けて掲載された記事
e. 写真（報告書に掲載してもよい写真があればご紹介ください）
f. ビデオ（ <input type="checkbox"/> をチェックし、詳細を書いてください）
<input type="checkbox"/> 外向けに団体が編集、制作したもの
<input type="checkbox"/> 他者が制作したものに一部写っている
<input type="checkbox"/> 記録用のみに撮ったもの

ヨハネスブルグ・サミットに関する NGO 質問票

〔団体の概要〕

団体名	(財) アジア女性交流・研究フォーラム 英語名: Kitakyushu Forum on Asian Women	
所在地・ 連絡先	〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4 北九州市大手町ビル3階	
	電話:093-583-3434	FAX:093-583-5195
	email: kfaw@kfaw.or.jp ホームページ http://www.kfaw.or.jp	
設立年月	1990年10月設立 1993年10月財団法人設立	
組織	専従スタッフ	11名 ボランティアスタッフ 名
	会員制度 (あり)	正会員 名(内訳:個人 名 /団体・法人 名) 賛助会員252名(内訳:個人232名 /団体・法人20名) その他会員 名
団体の目的	女性の地位向上とアジア地域の連帯・発展の核として機能することをめざす。	
団体の活動 プロフィール	<p>(1) 調査・研究事業 国内外の研究機関や大学との共同研究を通じ、アジアの女性の現状を明らかにし、問題解決をめざしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主席研究員研究、主任研究員研究、客員研究員研究、 ・ 研究誌「アジア女性研究」(日・英)を発行。 <p>(2) 国際交流・研修事業 アジアの女性の諸問題とともに学び、考え行動につなげる場として交流・研修事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア女性会議 ・ JICA研修の受託(2コース) ・ 国際協力カレッジ(市民向けセミナー) <p>(3) 情報収集・発信事業 アジアの女性に関する情報をさまざまな方法で発信・収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報誌「Asian Breeze」の発行 ・ アジア女性シリーズの発行 ・ 国際理解教育教材ビデオ制作 ・ ホームページ 	

1. 団体（及び団体関係者）がヨハネスブルグ・サミットに関連して行なった活動

A. サミットまでの活動

2002年1月18日 「リオ+10 ヨハネスブルグサミットに向けての世界の準備状況」セミナー

2002年2月9日 円卓会議—北九州：持続可能でジェンダーに公正な社会づくりに向けての提案（提案文：別添のとおり）

2002年2月17日 円卓会議—東京：同上（提案文：別添のとおり）

2002年5月10日 「ヨハネスブルグサミットへの道～第3回準備会合報告」セミナー（北九州市立大学と共同で開催）

2002年7月27日 ヨハネスブルグサミットにむけての地域フォーラム開催

B. サミットで（または会期中日本国内で）の活動

サミット参加 2002年8月24日～9月5日

2002年8月27日

（財）アジア女性交流・研究フォーラム主催ワークショップ「青空がほしい」開催

2002年8月28日

韓国女性環境ネットワーク主催、北東アジア女性環境ネットワーク、（財）アジア女性交流・研究フォーラム共催 パネルディスカッション 「持続可能な開発におけるジェンダーの主流化:北東アジアにおける経験と課題」開催

2002年9月

ヨハネスブルグ宣言に関する声明文の発表

C. サミット後の活動及び今後の活動の展望

2002年9月27日 昼夜2回

「ヨハネスブルグサミット参加報告会」開催

2002年10月12日 北九州市/ 14日 東京

北東アジア女性環境会議開催

北九州市立大学 講義2回

情報誌 Asian Breeze に参加報告記事を掲載。

上記以外にサミット参加者が女性団体を中心に招聘され、東京、静岡、北九州市内などで講師としてサミットや環境問題について講演をしている。

2. ヨハネスブルグ・サミットに対する評価・意見

「ヨハネスブルグ・サミットで得たもの・得られなかったもの」

(1) 実施計画について

(財) アジア女性交流・研究フォーラム主任研究員織田由紀子 Asian Breeze 36号参照
・・・ ジェンダーの視点からの評価

全体を通して、女性という言葉は25回、ジェンダーは13回、女兒が7回出現している。他に女性世帯主、性別データの収集なども含めて合計38準パラグラフにおいてジェンダー・女性に言及されており、一応の前進を見たと言える。これをさらに細かく見ると次の進展が見られた。

- ・ ジェンダーの主流化、ジェンダーに敏感な、ジェンダーに平等などの文言が使われている。
- ・ ジェンダー平等がガバナンスの基礎であることが明確に書かれている。
- ・ 女性に対する暴力および差別の廃止という表現が入った。
- ・ 性別統計、持続可能な開発の指標にジェンダーの側面を入れるとの表現が入った。
- ・ 女性が意思決定に参画することの重要性が強調された。

これらは、アジェンダ21において既に言及されていることであるが、ここで再度その実施が確認されたことになる。

以上の進展とは逆に課題もある。それは、相変わらず女性が、受益者、社会的弱者ととらえられている例が多いことである。また、ジェンダー・女性の文言が出てくる分野に偏りがあり、教育、健康、農業、意思決定への参加に関しては多く触れられているが、グローバリゼーションに関する章ではまったく出てこない。グローバリゼーションが性別に不均衡な影響を及ぼすことは、女性2000年会議の成果文書でも認められているにもかかわらず、これを反映できなかったことは残念であった。

(2) 女性コーカスとしての活動

(財) アジア女性交流・研究フォーラム主任研究員織田由紀子 Asian Breeze 36号参照

保健サービスにかかわるパラグラフ47は、「実施計画」の交渉に当たり最後まで残った争点であった。このパラグラフについて女性コーカスが問題としたことは、「国内法や文化及び宗教上の価値観と一致する形で」保健制度の能力を強化する、とされていた点である。これは女性のリプロダクティブ・ヘルスなど人権を脅かす恐れがある上に、1990年代の人口開発に関する国際会議、北京世界女性会議などの一連の国連の会議の成果を無にするものと見たのである。しかし、このパラグラフは既に合意されていると見る政府代表もあり、討議するかどうかという点から意見の一致を見なかった。

すでに合意されている部分とバランスを取るために、「人権および基本的自由と調和し」という文言を加えることが提案され、女性コーカスもこの案に賛成し、その実現に向かって団結してロビーイング活動を展開した。途中、プラカードを持って黙って立つといった示威行動なども行い、最終的に、「人権および基本的自由と調和し、国内法や文化及び宗教上の価値観と一致しながら、基本的な保健医療サービスを全ての人びとに提供し」という表現にすることができた。これは女性コーカスが団結して活動した成果として皆誇りに思っている。

(3) その他

国内外のNGOとのネットワークを強化できた。

3. 団体（または団体のメンバー）による、サミット関連の報告書や意見書(ニュースレターやその他雑誌など、他団体発行媒体での掲載分も含む)、及び団体に帰属する写真・ビデオなどのリスト

a. 自主制作報告書
なし
b. 報告会資料（開催告知チラシ、当日配布資料など）
別添のとおり
c. ニュースレター
Asian Breeze 36号 日・英 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 情報誌 「ムービング」30号
d. 雑誌・新聞等に投稿または取材を受けて掲載された記事
西日本新聞 2002年8月16日 西日本新聞 2002年8月20日 毎日新聞 2002年9月8日 女性ニュース（全国婦人新聞社）2002年9月30日号 女性展望（（財）市川房枝記念会出版部）2002年10号 地球環境基金便り（環境事業団）2002年9月25日号 ON AIR（放送大学ニュースレター）
e. 写真（報告書に掲載してもよい写真があればご紹介ください）
（財）アジア女性交流・研究フォーラムが関わったワークショップ写真 女性コーカスの模様
f. ビデオ（ <input type="checkbox"/> をチェックし、詳細を書いてください）
・・・ なし
<input type="checkbox"/> 外向けに団体が編集、制作したもの <input type="checkbox"/> 他者が制作したものに一部写っている <input type="checkbox"/> 記録用のみに撮ったもの